

## ヒメタニシ

### Sinotaia quadrata histrica

種名



分類	原始紐舌目タニシ科
俗称	ゼゼラ(琵琶湖)、タツボ・タツボ・タヌシ(日本各地、タニシの総称)
形態的な特徴	殻高は 30mm、殻径は 23mm で殻は卵円すい形の小型の巻き貝で、殻の頂点は腐りやすく、殻の皮ははげたものが多い。色彩は緑褐色、平滑で光沢のあるものから螺旋状に殻が角張り、その線上に微毛の生じるものまで変異が大きい。蓋の色は赤褐色。マルタニシ、オオタニシに似るがより小型である。
分布	本州から九州にかけての各地に分布する。
繁殖行動	繁殖期は6～8月頃で卵胎生。体内には 20～30 個の仔貝を持つ。雌雄異体で片方の触角が巻いている方がオスである。
生息場所	平野部の潟、沼、小川、水田の用水路などの浅いところに好んで生息する。やや流れのあるところから全くの止水まで生息し、やや汚れた水質でも生息できる。
食性	食性は雑食性で、底泥や植物などに付着する藻類など有機物を食べる。
生息環境への配慮事項	比較的汚濁の進んだ水域にも生息しているため、個体数が極端に減ったということはないが、水域自体の消失もあり徐々に減少している。飼育や繁殖が容易で、中国では食用にされているが日本では鶏などの飼料としても利用される。とくに個体数が減ったということはないが、水域自体が減少していることも考えられる。水質が比較的悪いところに生息しているため、水質汚濁の指標生物の一つとされている。
その他	

引用文献：[http://www.maff.go.jp/nouson/mizu\\_midori/menu/main.html](http://www.maff.go.jp/nouson/mizu_midori/menu/main.html) を改変